

復活へ

大和川の挑戦

「日本一汚い川」からの脱却

清流

水質改善に向け、大和川流域の市町村が独自の取り組みをしており、そ

平成6年度からスタートした廃食用油の回収、リサイクル事業は平成20

月から運用している。推進会議としては、「夏休み親子水探検講座」

ヨシノボリ、汚い水にすむアメリカザリガニなどの生物を展示して、子どもたちの関心を集めた。

市独自の取り組みとしては、市内の小学校への出前授業「水の大切さ」を10年ほど前から続けており、環境学習として定着した。小学4年生を対

廃油回収や親子講座

の中でも橿原市は多彩な活動を実施している。

大和川汚濁原因の8割は生活排水によるもの。橿原市をはじめ大和川の支川・飛鳥川の流域5市町村が「飛鳥川流域生活排水対策推進会議」として、さまざまな施策を実施している。

年度は5市町村合計で約1万3500リットル。橿原市だけで8750リットルの実績を挙げた。これは実に当初の62倍もの数字で、市民らの環境意識の向上を物語る。

また、9月の「かしはら商まつり」では推進会議のブースを出展。きれいな水にすむトンコヤ

象にした生活排水対策の講座で、水質の簡易実験を行う。子どもから保護者へ水の大切さを伝えてもらうのが狙いだ。そのほか、環境啓発パネル展や街頭キャンペーンなど活発な活動を展開している。

市町村の取り組み—橿原市の場合



飛鳥川のフィールドワークでは、親子らが水環境の大切さを体験した

加藤智治室長補佐は「生元自治会などの連携も活排水対策により、子や心がけたい」と話している。孫に良い環境が残せることを訴えていきたい。近 毎月1回、下旬に掲隣の市町村やNPO、地 載

当記事を奈良新聞社に無断転載することを禁じます。

21年11月30日(月)
奈良新聞
朝・夕